

# 令和4年度 第1回 県政改革審議会 議事要旨

## 1 日 時

令和4年9月6日（火）14：30～16：45

## 2 場 所

兵庫県公館 大会議室

## 3 出席者

### (1) 委員

上村会長、石川委員、入江委員、勝沼委員、門委員、木田委員、佐伯委員、澤本委員、摺河委員、友藤委員、八田委員、福永委員、松田委員、山名委員、吉井委員（15名）

### (2) 県

齋藤知事、片山副知事、服部副知事、遠藤防災監兼危機管理部長、八尋技監、小橋新県政推進室長兼総務部長、梶本企画部長、稲木財務部長、城県民生活部長、生安福祉部長、山下保健医療部長、宮口産業労働部次長、岡農林水産部次長、菅環境部長、杉浦土木部長、西谷まちづくり部長、小畑会計管理者、成田企業庁次長、杉村病院事業管理者、藤原教育長（20名）

## 4 議題

### (1) 会長選任等

ア 委員の互選により、上村委員を会長に選任

イ 上村会長の指名により、石川委員を会長代理に指名

### (2) 運営規程改正について

- ・ 運営規程を改正し会議を原則公開すること等について議決

### (3) 令和3年度の行財政運営方針実施状況について

### (4) 審議会意見案について

## 5 発言要旨（主なもの）

（はじめに）

- ・ SDGs は極めて高い目標であり、県政のあるべき姿として掲げるには覚悟のいる取組である。重点目標とするのであれば、その内容を具体的に示すべきである。
- ・ ひょうごビジョン2050はSDGsのさらに20年先を見据えたビジョンであり、その実現のために、いつまでに何をどう具体化していくかという逆算の発想が必要である。
- ・ SDGS に掲げられている内容、特に人権と環境に積極的に取り組まれない。

（令和4年度以降の行財政運営状況）

- ・ 今年度はウィズコロナ時代への転換期であると考えられる。コストアップ型インフレ対策と同時に、県内の観光資源の情報発信や交通アクセス・社会基盤整備等の人や企業・投資を兵庫県に呼び込む取組みを実施し、地域経済の活性化を図ることで、税収の増加等、県財政への好循環を生み出すべきである。

（組織）

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大時等の非常時には、タスクフォース的な組織の設置も検討されたい。

#### (職員)

- ・時代の変化や新しい行政課題に適切に対応していくためには、人材の充実が必要である。引き続き適切な職員配置のあり方について検討いただきたい。
- ・教育現場は多忙を極めている。教育現場の業務改革や教職員不足の解消に、市町とも連携のうえ取り組まれない。
- ・女性が働き続けられる制度が必要であり、多様な働き方の推進に引き続き取り組まれない。また、男性の育児休業の取得については、率だけでなく日数にも注意すべきである。女性活躍やダイバーシティの推進にあたっては、男女ともに意識改革を図られたい。

#### (行政施策)

- ・将来発生するといわれている南海トラフ地震等に備え、防災・減災のための施策に継続して取り組まれない。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大やウクライナ情勢の影響等による物価高騰が進んでいることから、県民生活や社会経済活動の安定に向けた施策に引き続き取り組まれない。
- ・社会経済活動の担い手不足に対する対策を早急に講じられたい。

#### (公営企業)

- ・この度の新型コロナウイルス感染拡大時において、救急等一般医療に影響が生じたケースもあったことから、その点について検討していただきたい。
- ・公的病院がコロナ患者を受け入れてくれたおかげで、地域医療が維持され、公的病院の重要性が再確認された。地域医療構想の中で県内の公立病院の取組についても検討していただきたい。

#### (教育施策)

- ・県立高校の発展的統合について検討がなされているが、県立高校だけではなく私立高校の状況も含めて、適正規模・適正配置について検討されたい。

#### (今後の県政への期待)

- ・福祉分野においては、制度はだいぶ充実してきたといえるが、今後の課題として、制度の狭間や、制度があっても支援が届かない方への対応をいかに図るかということを検討されたい。
- ・安全安心の網を広げるためには、子育てママ、外国人などに対し「孤立」を作らないことや、多様性が活きる、あるいは活かされる県政が重要であると考えられるので、今後の県政の基本理念に加えていただきたい。
- ・施策の推進にあたっては、県議会、市町、関係団体、県民等に対し、早めの説明を行うとともに、そこからの意見の反映の過程も明らかにされたい。

#### (総括)

- ・財政指標の改善が見られるが、将来の財政を考えると必ずしも楽観はできない。引き続きマクロ的な財政の改善を目指して取り組むことが重要である。
- ・行財政運営の結果報告は、金額面の報告がなされることが多いが、県民にとって大切なのは、成果がどうなっているかである。成果目標に対してどのぐらいの達成割合になっているのかといった、成果を意識した報告についても、今後検討していただきたい。

以上